

東日本大震災と原爆の記憶継承に関する研究

研究分野: 社会学、文化社会学、社会調査、地域社会論、災害アーカイブズ論

キーワード: 記憶、継承、地域社会、モノ、語り、生活史、アーカイブズ

貢献できるSDGsの区分:



地域創造学部 公共政策学科 准教授 深谷 直弘

教員情報URL <https://sun.ac.jp/fuka-naoh/>

研究概要

直接の被爆体験者が数少なくなっていく中で、「記憶」の世代間継承が大きな課題となっています。その中で私は、一貫して地域社会の生活者の視点にたって「原爆の記憶」を問おうとしてきました。研究では長崎という場所にこだわり、地域生活のなかでどのようにして原爆の記憶が継承されていくのかについて探求しています。具体的には被爆遺構の保存過程や原爆資料館の展示、非体験者などの平和活動を取り上げて調査研究を行っています。

また2017年4月から2020年3月まで、東日本大震災・原子力災害伝承館(2020年9月開館)にて利用する資料の収集・保存業務に携わってきました。その経験をもとに、原発事故を含む東日本大震災の記憶継承についても、震災遺構の保存や証言を語る活動を対象に調査研究を行っています。

調査研究方法は、インタビュー調査などの質的調査になります。

産学連携の可能性(アピールポイント)

これまでの社会調査の経験、たとえばインタビュー調査の手法について、貢献できることがあるかもしれません。

東日本大震災・原子力災害伝承館の資料収集・保存業務を含めた災害アーカイブズ構築の経験がありますので、資料収集・目録の作成、あるいはアーカイブズを構築する場合にはお手伝いできることがあるかもしれません。

外部との連携実績等

- ① 外部資金実績: 公益財団法人トヨタ財団2016年度助成共同研究「戦争災害前後の日常生活の記憶継承に向けたアクションリサーチの実践的研究」(共同研究者、2019年3月)、科学研究費補助金「災害多発環境下の日本に住み続けることの意味を問う」(基盤研究A:22H00031、研究分担者、2026年3月まで)など。
- ② 研修講師: 東京都立瑞穂農芸高等学校 平和学習のゲスト講師(原爆体験の継承に関する内容)、福島県須賀川市教育委員会研修 講師(「福島の復興の歩みと現状について」というタイトルで講演)
- ③ 外部調査委員: 一般社団法人東友会「東京都在住原爆被爆者実態調査」調査委員・「東京都在住被爆二世実態調査」調査委員(2015年7月)など。